



教師としての原点－学び続ける姿勢の大切さ－

栗東市教育委員会 教育長 今井 義尚

現行指導要領が2017年に告示され、実施から幼稚園は7年目、小学校は5年目、中学校は4年目、高等学校は3年目を迎えています。指導要領の告示後も、「GIGAスクール構想」、「STEAM教育」、「EdTech」、「非認知能力」、「教育DX」、「令和の日本型学校教育」、「不登校対策COCOLOプラン」、「個別最適な学び」等教育に関するトピックスが次々出てきて戸惑うことの多さを感じています。これも時代の変化の速さの現われでしょうか。我が国の教育は教育課程の基準である学習指導要領に基づき進められていますが、実施してきたことを振り返ることなしに新たなことに取り組んでいくことは少し心配なところがあります。もちろん中教審などでは多くのデータを着実に分析したうえで、新たな施策を打ち出しているのですが、教育現場では自分たちの実践をじっくり振り返るような「ゆとり」はあまりありません。

【表1】は日本財団の18歳意識調査「第46回-国や社会に対する意識(6カ国調査)-」報告書からのデータですが、国際比較をすると日本の18歳は他の6か国に比べて社会との関わる意識が低いことがわかります。特に「自分は大人だと思う」「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」がそれぞれ3割以下でしかありません。

(単位: %)	自分は大人だと思う	自分は責任がある社会の一員だと思う	自分の行動で、国や社会を変えられると思う	国や社会に役立つことをしたいと思う	慈善活動のために寄付をしたい	ボランティア活動に参加したい
日本	27.3 6位	48.4 6位	26.9 6位	61.7 6位	36.2 6位	49.7 6位
アメリカ	85.7	77.1	58.5	73.0	66.7	70.4
イギリス	85.9 1位	79.9	50.6	71.2	69.5	64.2
中国	71.0	77.1	70.9	82.1	78.9	85.3 1位
韓国	46.7	65.7	61.5	75.2	62.4	70.7
インド	83.7	82.8 1位	78.9 1位	92.6 1位	83.7 1位	78.1

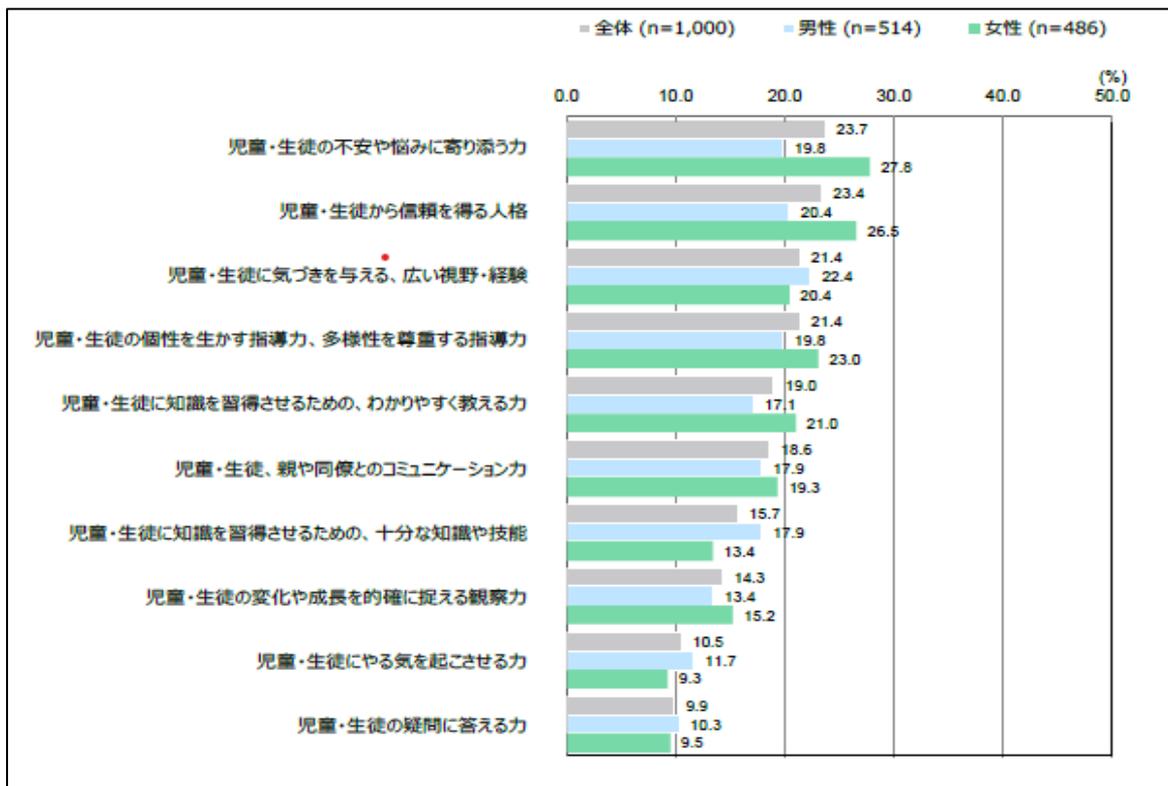
これはどういうことを意味しているのか。これまで崇高な理念のもと様々な方法で教育に取り組んできたわが国ですが、このような結果もふまえてもう一度原点に立ち返ることも必要なことかもしれません。

【表1】18歳意識調査「第46回-国や社会に対する意識(6カ国調査)-」

指導要領は今後の社会を見据えた視点で作成されるものですが、時代の変化が速く、指導要領の改訂作業を進めている時点で最新のものが、告示や実施の時期ですでに色あせかけてきていて、実施中間点ではもうすでに過去のものとなっているということもあるかもしれません。それほど、時代は予測できない速さで進化（変化？）をしています。子どもたちが生きる5年後、10年後、20年後の社会はどんな状況なのか、その社会で生き抜くためにはどんな力が必要であるのか、正直明確にできないのが現実ではないでしょうか。

しかし、そんな中であるからこそ、今一度「どんな時代であっても大切にしなければならないもの」は何であるのかという原点を見据えて、教育を進めていくことが必要であると思うのです。

【表2】は同じく日本財団18歳意識調査「第61回-教育-」の「あなたは、義務教育における教員は、どのようなスキル・能力を有しているべきだと思いますか。」という問いに対する回答ですが教員に期待している子どもたちの思いの一端が表れています。



【表2】 18歳意識調査「第61回-教育-」日本財団2024年3月6日より抜粋

「子どもの不安や悩みに寄り添う」、「信頼を得る人格」、「子どもに気づきを与える広い視野・経験」など時代が変化しても変わらない教員の姿勢が求められていることがわかります。

これらの調査結果をみて、教育に携わるものはたえず現在や今後の社会の在り方を見つめながらも、教師としての原点を見失わず、自分自身が人としての向上心を持って学び続けることが大切であると改めて感じたところです。

【令和6年度 栗東市立教育研究所 運営概要図】

栗東市 教育方針

心豊かに たくましく生きる 人の育成

教育研究所

基本方針

栗東市教育方針に沿って、教育の今日的な課題の究明及び解決に努め、栗東市教育の振興・充実に資する。

研究事業

非認知能力の育成を 目指す実践調査研究

「自ら伸ばそうとする意識に重点を置いた非認知能力の育成」

～意識づけツールを活用した組織的・継続的な取組を通して～

I アイコンの活用

II めあて・振り返りシートの活用

III ギミックブラッシュアップシートの活用

全国学力学習状況調査の分析

栗東市の児童・生徒の課題を究明し、解決に向けた方略を探る

今日的課題の
究明・解決

研修事業

教職員研修講座

就学前教育、小・中学校教育、一般教育、生徒指導・教育相談、特別支援教育等に関する内容

教育研究奨励事業

保育者・教職員の自発的な教育研究活動の促進。研究の進め方等に関する指導

就学前保育教育 内容研修事業

信頼される園づくりのために、保育倫理の確立、保育の計画性、実践力等の専門性の向上

指導力を
高める

渉外・啓発

渉外

○関係機関との連携
・県内教育研究所協議会
・県総合教育センター

啓発

・「教育研究所だより」の発行とホームページへの掲載
・プログラミング教材の提供
・教育研究奨励論文集の収録とホームページへの掲載

関係機関との
連携

第22回 栗東市教育研究発表大会

研究奨励事業結果発表及び表彰・研究論文発表・調査研究発表・教育講演会



保育者・教職員の資質向上をめざします

教育研究所 運営委員の紹介

市内の園長会、校長会、主任会、教務主任会の各代表の先生方に運営委員をお願いし、教育研究所の運営を展開していきます。運営委員の先生方をご紹介します。

園長会代表	大宝西幼稚園	園長	前田恵美
校長会代表	大宝小学校	校長	坂東靖記
主任会代表	葉山東幼稚園	主任	木村恭子
教務主任会代表	葉山小学校	教諭	鈴木真由美
教務主任会代表	大宝小学校	教諭	矢野祥次
教務主任会代表	栗東中学校	主幹教諭	富永美保

- ◆今年度も、「夏期研修講座」や「教育研究奨励事業」を積極的に進めていきたいと思えます。教育研究所の研修講座等にふるってご参加ください。
- ◆保育・教育に役立つ講座等が提供できるように研究所運営を推進していきます。

教育研究所 所員の紹介

所長	中川謙二	参事	山口敏生
副所長	小幡庫士		
★研修・研究係長	橋本三左	研修・研究係長	山本致子
研修・研究係長	森聡	研修主事	森下一司
研修主事	森耕平	研修主事	辻顕史
研修主事	松田愛	研修主事	小林美恵
研修主事	井上裕司	研究員	本郷美緒
★学務係	宮城己智也	吉川しのぶ	向勇人

〒520-3088 栗東市安養寺一丁目13-33
栗東市教育委員会事務局内
TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149
E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp